

令和3年8月

勉強会参加のみなさまへ

NPO法人常磐炭田史研究会

会長 野木和夫

勉強会（日程再変更）のご案内

オリンピックが終わったら今度は記録的な大雨、加えてコロナ禍も急拡大で日本列島も大変なことになっておりますが、如何お過ごしでしょうか。

福島県もいわき市を対象としているまん延防止等重点措置を9月12日（日）まで延長するようであります。勉強会会場に予定していた「いわき市石炭・化石館」も8月末迄だった休館が9月12日まで延長する事になりそうで、そうなると勉強会の会場は使用できなくなります。

つきましては常磐炭礦(株)磐城砒業所閉山50年の節目の勉強会のうち、

9月 4日（土） 講師 野木和夫 を 10月23日（土）に

9月11日（土） 講師 小宅幸一 を 10月16日（土）に

それぞれ再延期致します。コロナ感染のリスクは避けて、安全・安心の勉強会にしようと思っておりますので、ご理解・ご協力の程どうぞよろしく申し上げます。これ以外の勉強会日程は当初の予定通り（別紙日程表でご確認下さい。）、場所は「いわき市石炭・化石館」、時間の13時～15時は変わりません。

みなさまもマスク着用、出入りのアルコール消毒、間隔を空けた座席、そして熱が出たり体調不良時は欠席して下さい。感染予防のため飲み物は出しませんので各自ご準備願います。

みなさまにはコロナ禍の中、くれぐれもご自愛ください。

以上

再変更後勉強会日程（下線が9月から変更）

場所 いわき市石炭・化石館「ほるる」コミュニティ・ホール

時間 13時00分（受付12時30分から）～15時00分

司会進行 野木和夫

① 9月25日（土）「閉山と湯本二小の子供たち」講師 会員 吉田静江＋ゲスト

講師は大閉山の年、湯本二小の教師をしており、閉山で故郷を離れる親と一緒に新天地に行く多くの子供たちの転校を見守ってきました。炭鉱のど真ん中にある湯本二小は閉山の時どんな様子だったのか、吉田先生とお招きしたゲストに思い出話をさせていただきます。

② 10月16日（土）「大閉山といわき地域の対応」 講師 会員 小宅幸一

いわき市役所OB。豊富な知識や写真を駆使してテーマに迫る手法は他の追随を許しません。この大閉山問題にいわき市など関係機関はどう対策をとったのか、それがどう復興に結びついたのか、この大きいテーマで持ち時間の2時間で終われるのか、その点だけが心配です。

③ 10月23日（土）「OBが語る常磐炭田の閉山事情」 講師 会員 野木和夫

講師は常磐炭礦株に入社時、実習で2か月坑内作業も経験。常磐炭礦株OBとの交流も多く、閉山経験者から直接話を聞いたり、資料を調査したりして今回のテーマとしました。常磐炭田全般の閉山事情にも触れるいわば「閉山とは・・・の入門編」です。

④ 11月20日（土）「今だから話せる閉山闘争」 講師 OB 安斎哲男

安斎哲男氏は常磐炭礦労働組合の役員として労働者の権利と生活を守る活動を続けてまいりました。そして50年前のあの閉山反対闘争を実際戦った、今では数少ない証言者の一人です。組合から見た閉山とはどんなものだったのか・・・話させていただきます。

⑤ 1月22日（土）「脱炭素社会と石炭産業のこれから」講師 会員 渡邊英樹

明治以降の日本近代化や戦後復興に尽くした石炭ですが、最近は何かと風当たりが強くなっております。講師は常磐興産株で長年石炭営業を担当、現在は常磐港運（ときわこううん）株の社長として活躍中。石炭産業の今とこれからの分かりやすく解説させていただきます。

⑥ 3月19日（土）「旧青葉の住人よりの書簡」 講師 会員 菅波 晋

常磐青葉地区は常磐炭礦株の炭住があり、「旧青葉の住人」と称する匿名の方から講師宛てに30通を越す書簡が届き、内容を見ると戦前戦後の炭鉱の話や珍しい写真もあり、炭鉱と湯本町の関連を含め、勉強になるので今回とり上げました。

参加予定者（順不同・敬称略）

増田洋輔、橋本澄子、矢内 忠、荒儀右衛門、滝口信之、小山 剛、安部憲夫、古池敏人、草野利勝、渡辺光男、青木美土里、高木純一、助川道安、大坊真輝、松本真紀恵、高橋和幸、馬目太一、熊澤幹夫、菅野昭夫、川崎泰夫、野木和夫

以上21名ですが、全回参加と限定参加の方もおりますので毎回この人数ではありません。又、馬目太一、熊澤幹夫、菅野昭夫、川崎泰夫の4名は研究会活動の常勤メンバーなので当日は名札をつけてスタッフ的な立場で参加しております。勉強会で何か分からない事や問い合わせ等がある場合はこのメンバーにお聞きください。

事前のお問い合わせは 会 長 野木和夫 090-7322-9818

事務局長 馬目太一 090-8502-4278

追伸

（1） ミニ巡検（徒歩）

ほるる周辺は常磐炭礦株の本拠地でした。10月23日（土）勉強会終了後、天気良ければ約1時間半位、その面影を訪ねてみたいと思います。参加費無料。イラストマップや当時の写真も用意します。

（2） 常磐炭田のエネルギー変遷を体感する巡検

勉強会が終わる来年の3月下旬頃、勉強会参加者と研究会会員全体に呼びかけての実施を検討したいと思います。コースは全くの素案ですが、

〈ほるる～常磐共同火力(株)勿来発電所・IGCC、～マリンブリッジ・小名浜港石炭埠頭～東電原発廃炉地区（太陽光、水素）～大震災・原発災害伝承館～J・ビレッジ～ほるる〉。

希望者が多ければ大型観光バス（費用は参加者負担、弁当持参）で移動します。

いずれにせよ9月25日の第1回勉強会時に皆様の意向もお聞きしながら、理事・事務局とも相談して問題が無ければ現地調査の上、正式に募集したいと思います。

以上